

年頭のご挨拶

あなたの健康が私たちの願いです

皆様 明けましておめでとうございます。

去年は、能登半島地震のため、「おめでとう」と申し上げられない正月でした。9月の豪雨も重なり、一年が経った現在でも能登の復旧にはさらなる時間と労力が必要です。勝木グループ各事業所では被災したものの一部損傷にとどまり、発災直後から医療・介護・健康増進事業を通常通り継続し、災害支援を行って参りました。

私たちのミッションは、ウェルネスマインドを基に、医療・介護・健康増進事業を一体として地域に提供していくことです。

地域医療構想は、コロナ禍で医療情勢が激変し、震災の影響もあり、歩みが緩やかになっていたものの、今年からは加速度をつけて検討されていきます。

「あなたの健康が私たちの願い」である「あなた」は、お住まいに関わらず、利用者の方、職員、職員のご家族など、すべての方を「あなた」として想いを寄せ、職場の健康経営を推進し、働きがい・働きやすさをさらに高めて、すべての皆様と共に、地域健康社会が築けますことを、祈念しております。

特定医療法人社団 勝木会

理事長 勝木 保夫

CONTENTS

- 理事長 年頭のご挨拶
- 武本医師紹介／「再生医療PRP療法」始めました
- バングラデシュのお二人紹介／第25回 地域医療連携連絡会を開催しました／医療安全対策室の紹介
- 野球肘検診を実施しました／海岸清掃／職員資格取得のご報告

新任医師の紹介

2025年10月1日就任

新しく着任した医師を紹介します。
どうぞよろしくお願いいたします。



整形外科
医長
武本 尚大
●たけもと しょうた

Message

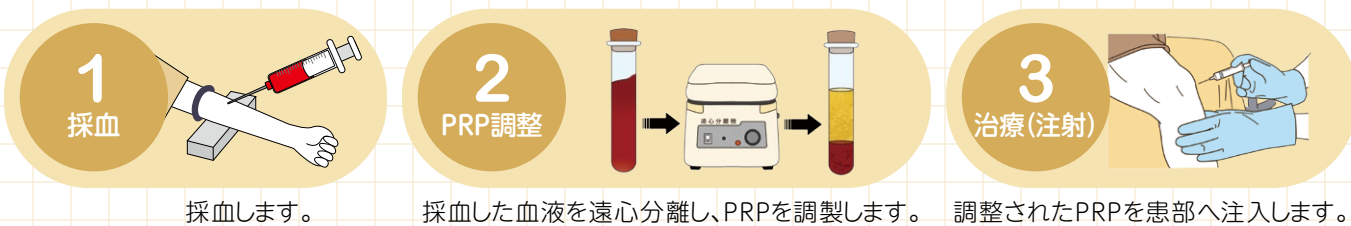
肩関節、股関節、膝関節、脊椎を中心に全身を診察しています。手術は人工関節置換術や肩、膝の関節鏡を中心に行っています。投薬や注射、リハビリなどの保存療法を基本にしつつ、それぞれの治療のメリットデメリットを分かりやすく説明し、患者さんのニーズに合わせた治療を提案することを心がけています。痛みは大きく生活の質に影響を与えるものであり、痛みを改善し、それまで難しかった運動や趣味を続けることを目標と一緒に頑張っていきたいと思います。

「再生医療PRP療法」始めました

関節の痛み、腱の痛みなどでお困りの方へ治療の選択肢の一つとして提供できる、「PRP療法」の体制が整いました。PRP療法とは、自分自身の血液から取り出した成分を用いて、患部の治療や再生を促す治療法です。副作用のリスクが低く、安全であると言われています。

現時点では保険診療に該当せず、自費診療となります。また、傷んだ組織の修復の程度や臨床効果にも一定の限度があるため、全ての方に十分な効果を保証するものではありません。PRP療法をご希望の場合には担当医とご相談ください。

治療の手順 ※すべての治療は当日中に完了します。



効果の持続期間

一般的に1週間～6か月で組織修復が起こり、治療後2～3か月後に効果の出現が期待できます。繰り返し治療を行うことも可能です。

デメリット

- ・ご自身の血液を使用するため、体調や年齢などに左右され、十分な効果が得られない場合があります。
- ・一般の血液検査時と同程度に、内出血の青あざができたり神経を傷つけたりする危険性があります。
- ・投与箇所、採血部に感染症が起こる場合があります。
- ・PRP投与後の反応により、投与箇所の痛みや腫れが一時的に悪化することがあります。
- ・医療保険の適用を受けることができません。

メリット

- ・損傷した組織の修復や疼痛の改善効果が期待できます。
- ・ご自身の血液を用いるため、肝炎などへの感染やアレルギー反応などの副作用リスクがありません。
- ・日帰りでの処置が可能です。

費用

- ・1回目 50,000円(税別) ※学生は40,000円(税別)
- ・2回目以降 40,000円(税別) ※学生は30,000円(税別)

整形外科PRP治療チームより一言！

若い方で、仕事や家庭の都合で入院が難しい方や、高齢の方で手術などにリスクや合併症の心配がある方などに、手術と保存治療とは別の治療としてPRP療法が可能です。新しい治療として、広がっていけば皆様に喜んでいただけるとおもいます。

ダイバーシティ&インクルージョンを推進しています

ダイバーシティ&インクルージョンとは、多様な人材を活かし、その能力が発揮できるようにする取り組みです。

当院ではその一環として、2024年11月から特定技能外国人2名(バングラデシュ人)を看護補助者として受け入れています。お

二人から、「日本に来るのが夢でした。これから頑張ります」とあいさつがありました。
※「特定技能外国人」とは、「相当程度の知識または経験を必要とする技能を要する業務に従事する外国人向け」の在留資格を許可されて働く外国人を指します。労働不足を補う日本の国策として推進され、現在20万人以上の方が働いています。



第25回 地域医療連携連絡会を開催しました

11月8日(金)、ルートイングランティア小松エアポートにて、第25回地域医療連携連絡会を開催しました。

公立松任石川中央病院 災害医療対策センター長の安間圭一先生を講師にお迎えし、「能登半島地震から学ぶ～医療機関・介護施設の災害対策～」について講演いただきました。

南加賀地域を中心とする連携医療機関や介護施設、薬局、消防本部など44施設約90名の方にご参加いただき、地域における当院の機能や医療連携について理解を深めました。



◆開会の挨拶 院長 勝木達夫

◆リレートーク

＊「当院での脊椎手術～安全性を高める脊椎脊髄モニタリングへの取り組み～」
整形外科 主任部長 岡本義之

＊「過眠症」
循環器内科・呼吸器内科
担当部長 藤田主税

＊「放射線検査のご依頼について」
放射線科 主任部長 小坂信之

＊「石川県心不全地域連携パスについて」
循環器内科 勝木達夫

◆講演会

「能登半島地震から学ぶ～医療機関・介護施設の災害対策～」
公立松任石川中央病院
災害医療対策センター長 安間圭一先生

◆閉会の挨拶

小松市医師会 会長 村井裕先生

医療安全対策室の紹介

私たちの病院には、医療安全対策室という専門の部署があります。医療安全対策室には、感染管理と医療安全を担う専門的知識を有する副院長と感染管理認定看護師、医療安全管理担当として専門の研修を修了した医療安全管理者(看護師)2名が所属しています。

医療安全対策室の活動は、患者さんが安全に治療やケアを受けられるように職員サポートや教育、データ分析を行い、院内の各部署から選出された職員と共に改善に取り組んでいます。

また、全職員が安全第一の意識を持ち続け、知識を習得・再確認するために、定期的な巡回による安全対策の確認や最新の知見などを発信、年2回の職員勉強会の企画運営や入職者研修を実施しています。

さらに、病院間で院内感染防止・医療安全活動の相互評価を導入し、安全の質が向上するように活動しています。地域の皆様への感染予防講座も積極的に行っています。

医療安全対策室の看護師は、サーモンピンクかベージュの制服を着ていますので、病院内で見かけたら、気軽に声をかけてください。また、何か気になることや不安なことがあれば、遠慮なく職員までお知らせください。



野球肘検診を実施しました

2015年から行っている野球肘検診を今年度も実施しました。

<参加者>

小松市の少年野球チーム 21チーム 102名

また今年度は初の試みとして「パルススロー解析」を行いました。

パルススローとは、腕にウェアラブル端末を装置し投球することで、腕の振りの速さや角度、肘への負担を評価できるもので、各選手の投球フォームの特徴や、野球肘のリスクを確認することができます。



海岸清掃

11月10日(日)、勝木グループ海岸清掃を行いました。

職員とご家族約40名が、安宅海浜公園のゴミ700ℓを集めることができました。

引き続き、地域を綺麗にする取り組みを行っていきます。



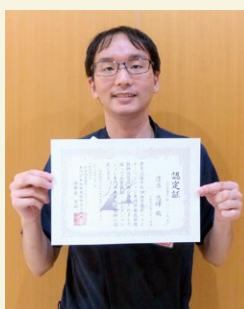
●職員資格取得のご報告



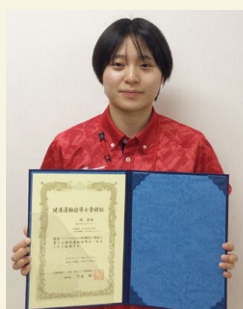
**心臓
リハビリテーション
指導士**
運動指導員
小池 順



骨粗鬆症マネージャー
看護師
東 典子(左)
医師事務作業補助者
岡田 友妃(右)



**血管撮影・
インターベンション
専門診療放射線技師**
診療放射線技師
清水 悠暉



健康運動指導士
運動指導員
北 真白



**上級睡眠
健康指導士**
運動指導員
東 香里



勝木会は **SDGs** に積極的に取り組みます。



この印刷物は、さとうきびの搾りかすから作られた
バガスパルプ配合のファインペーパーを使用しています。